

くによしじょうしかんれんいせき 21. 国吉城址関連遺跡

所在地：三方郡美浜町佐柿地係
調査原因：国吉城址史跡公園整備事業
調査期間：平成27年7月14日～12月19日
調査主体：美浜町教育委員会
調査面積：80㎡
時代：中世末～江戸初期



位置図(S=1/50,000)

調査の概要 美浜町では、国吉城址とその周辺遺跡群を含む歴史的景観の保存整備を図り、史跡公園として活用するため、平成12年度より確認調査を実施しています。

平成27年度第16次調査は、山城部本丸跡の東虎口跡調査区の遺構確認を行いました。

遺構 国吉城山城部本丸跡では、これまでに2つの虎口(出入口)が確認されています。一つは、昨年度までの調査で、鏡石を伴う石垣造りの平虎口の構造が判明した北西虎口です。椿峠や城主居館から通じるルートの側の門で、正面虎口ともいえます。

もう一つは、腰越坂や越前国敦賀方面を向く東虎口です。調査前は、虎口空間の存在は明確であるものの、門の位置や虎口内の導線は全く不明で、周辺に石材が散乱することから、石垣造りの虎口という程度の推定しかできませんでした。

昨年度の調査では、虎口内部に比定される空間に調査区を設定し(1T、2T)、遺構確認調査を進めた結果、1Tは石材の崩落が著しく、大木の根による攪乱した状態を検出し、2Tからは、南側から北へ落ちる斜面に沿って、東西方向を軸とする1～3段程度積んだ石垣遺構が確認されました。

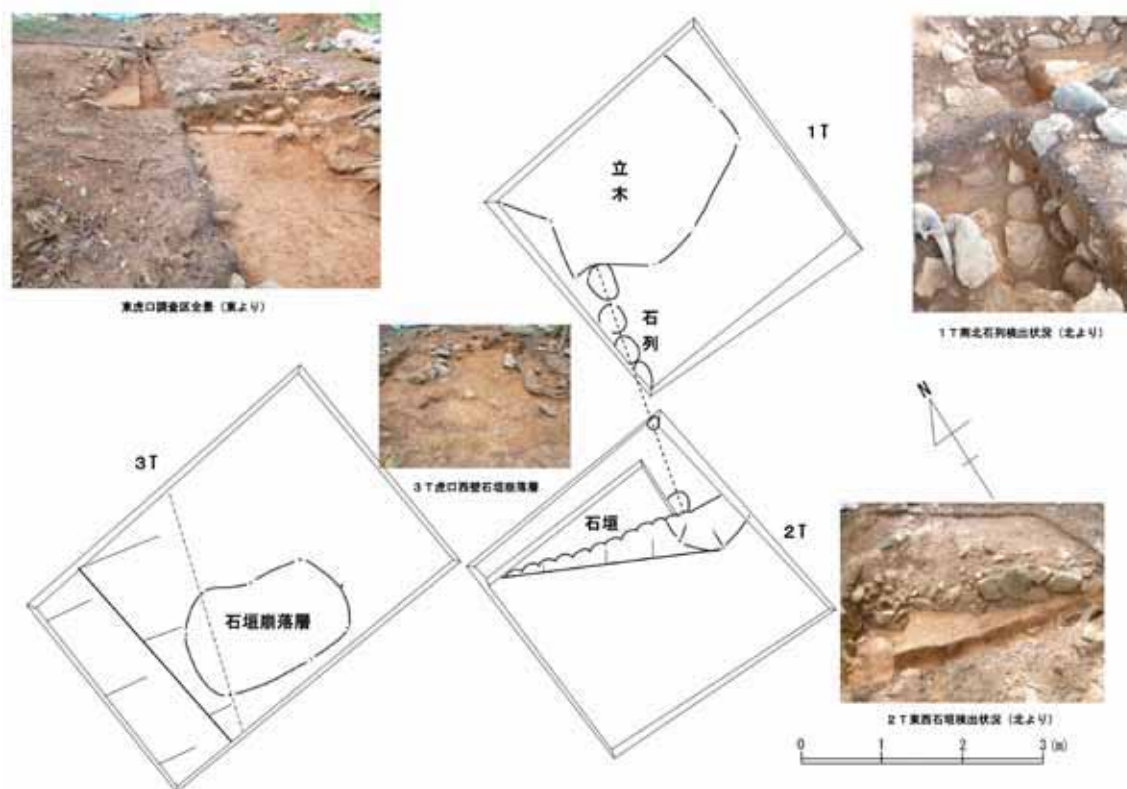
第16次調査では、引き続き1、2Tの調査を継続し、虎口空間の西面確認のため、新たに3Tを設けて調査しました。その結果、1Tの石垣崩落層を撤去すると、黄褐色粘質土の平らかな面を検出しました。この面を精査すると、トレンチ西壁際から、南北方向の石列が確認されました。2Tでは、石垣基礎部の確認のため、トレンチ東壁際にサブトレンチを設定し、さらに掘り下げました。その結果、下層からさらに2段分の積石を確認しました。また、石垣際で平石1基が出土しました。平石の隅は、石垣下に入り込む様相で、間の石は確認できなかったものの、石が外れたとみられる窪みが認められ、1Tで出土した石列と軸が一致することから、石列が石垣にまで及んでいた可能性が高いことが判明しました。3Tでは、虎口の西側壁となる石垣面は確認できないものの、石垣崩落とみられる石材が散乱した状況を確認しました。

遺物 北西虎口跡調査区に比べて極めて少ないながら、土師質土器、国産陶器、中国製磁器片など、多種多様の遺物が出土しました。1点、瓦片のような遺物が出土してい

ます。これまで、山城部では瓦の出土がなく、瓦片であれば極めて貴重ですが、瓦であればどの部位に当たるかなど、現時点では不明です。

まとめ 今回の調査で、東虎口の様相を知るには十分ではないものの、いくつかの新しい知見を得ることができました。東西石垣に沿って坂道(石段か)を西に登り、突き当りを左折して(南進して)本丸内に至る構造は、調査前の予測と一致するものの、現状の調査範囲で門遺構に直結するものは確認できませんでした。また、1Tで確認した東西石列の性格についても、現状では石段の一部なのか、門遺構に関連するものか、はっきりと確定できるものはありません。改めて、石列の東西の状況把握が必要と考えています。3Tの虎口西壁面も、これまでの調査実績から石垣崩落層下に石垣下段が残る可能性があり、虎口西面が明らかになることが期待されます。

また、今次調査では、佐柿城下の入口に当たる佐柿関所跡について、重機掘削による遺構確認調査も合わせて実施しました。関所跡に比定される旧工場跡が更地になり、地権者より土地の寄付を受けたことから実施したものです。その結果、約3mに及ぶ土砂堆積を確認しました。昭和30年代に、国道27号椿峠トンネル掘削土砂により盛土したもので、もともと低地であった関所跡付近を嵩上げて、現状のフラットな集落面を造成したことが明らかとなり、往時の集落(佐柿城下)は、関所から坂を上る様相で南の高札場まで丹後街道が続いてことが判りました。なお、関所跡に関わる明確な遺構は確認できませんでしたが、盛土層下で砂礫混じりの硬質な整地面を確認しました。関所時代の広場地面に相当する可能性が考えられます。(大野康弘)



国吉城山城部本丸東虎口調査区平面図(16次)